女性を意味する動物メタファーの相違点
-狐・猫・蛇を中心に-

権益湖*
kih@cau.ac.kr
高橋正憲**
subaru555wrc@gmail.com

<目次>

1. はじめに
2. メタファーに関する先行研究
 2.1 李徳奉(1992)
 2.2 籾山洋介(2006)
 2.3 楠見孝(2004)
3. 調査概要
4. 調査結果
 4.1「狐」に関するメタファー
  4.1.1「狐のように／みたいに」の調査結果
  4.1.2「狐のような／みたいな」の調査結果
  4.1.3「狐」に関することわざの調査結果
 4.2「猫」に関するメタファー
  4.2.1「猫のように／みたいに」の調査結果
  4.2.2「猫のような／みたいな」の調査結果
  4.3.3「猫」に関することわざの調査結果
 4.3「蛇」に関するメタファー
  4.3.1「蛇のように／みたいに」の調査結果
  4.3.2「蛇のような／みたいな」の調査結果
  4.3.3「蛇」に関することわざの調査結果
5. おわりに

主題語: メタファー(metaphor)、女性(women)、狐(fox)、猫(cat)、蛇(snake)

1. はじめに

「狐」「猫」「蛇」というの3種類の動物は、日本民俗において古くから重要な意味を持っており、さらには女性的な動物であると描写、または女性的な意味を担わされてきた。そこで本研究では同じ女性を喩えている「狐」「猫」「蛇」の3種類の動物のどの部分に注目して喩えられているのか、つまりメタファーの相違点、さらにこのメタファーが成立した文化背景などを探ることを目的とした。また調査方法にはインターネットのWWWページとことわざ

* 中央大学アジア文化学部教授
** 新羅大学教養課程大学教授

というデータベースから得られたものを利用した。

2. メタファーに関する先行研究

ここでは、本研究を行うにあたり、その基礎となった先行研究を分析して行く。

2.1 李徳奉(1992)

李徳奉(1992)では連想法とSD法を用い、日韓の大学生における犬及び猫のイメージの差を研究している。犬と猫について次のように述べている。

> 両国とも親近度は高いが、日本の場合は犬の属性に関する連想が多く、ペットとしての認識が強いと言え、韓国の場合は好悪に関する連想が多く、番犬としての認識が強いと言える。猫に関しては、日本の場合は、親近度が高く、猫の属性に関する比喩的慣用表現も多いが、韓国の場合は、猫を嫌う評価的連想が目立つ。

また「(犬や猫のように)ごく身近な対象の場合でさえも相当の文化差を見せているということは、より文化性の強い表現の場合においては、その差はもっと広げられるものと思われる」とも述べている。ここで「文化性の強い表現」とは何かということには触れていないが、本研究では(動物メタファーに限って述べるなら)民族的に重要な意味を持つ動物と解釈し、研究を行った。

李徳奉(1992)は動物メタファーを扱った先駆的な研究であり、当時から20年近く経った現在ではどのように変化したのかということがポイントになるであろう。

2.2 籾山洋介(2006)

籾山(2006)では、日本語は人間をどのように見ているかという観点からメタファーを研究・分析している。この中では「植物」「鳥」「天気」「機械」「想像上の存在」と5つのパートに分けて研究を行っている。例えば「植物」だと、「『芽が出ない』や『返り咲く』『一花咲かせる』のように『植物の成長過程』に関する表現を用いることによって、相対的に理解しにくい『人間

の営み』についてより印象的に、効果的に表現できる」と述べている。また、なぜ「植物の成長過程」に関する表現が「人間の営み」について述べるのに用いられるのかという点に関しては、「『植物の成長過程』は『人間の営み』よりも変化などが著しく、人の目を引きやすい」からであるとしている。残りの4つのパートについても詳しく研究を行っており、例文も新潮社のCD-ROMや青空文庫などから引用しているため、作例のような例文の不自然さが見受けられない。

2.3 楠見孝(2004)

楠見(2004)では、「比喩の理解」という観点から「比喩の機能」という点に注目し、研究を行っている。「比喩の機能」について次のように述べている。

> 比喩は正確なコミュニケーションや推論を導くものでなければならない。そのためには、たとえる対象が、受け手にとって、既知の構造化された知識であり、主題と重要な部分が対応し、正しい理解、推論や予測を引き出さなければならない。さらには比喩は、体系的な説明や予測を産み出すパワーや新たなものや美的なものを産み出すおもしろさも重要である。

さらに、慣用比喩の理解にイメージスキーマが働いていることに着目し、第2言語の学習への応用を提言している。例えば、日本語学習者に日本語の多義動詞の意味派生を教えるときに、「引く」という動詞が「そりを引く」から「血筋を引く」「同情を引く」などに派生が可能なことを線上軌跡のイメージスキーマをアニメーションで呈示すると、理解されやすいと述べている。

3. 調査概要

本研究では、インターネットのWWWページを利用し、調査・研究を行った。しかし、インターネットのWWWページは、荻野(2004、2007a、2008)や滝沢(2007)、田中(2003)らが検索結果の不安定さや資料自体の非永久性・再現性の悪さなどを指摘している通り、問題もあるが、本研究の検索ワードは新聞や本などのメディア媒体では検索されにくく、また大量の例文を瞬時に得られるというメリット―つまり田野村(2000)が指摘するところの用

例を効率的に収集できるため、利用し、調査・研究を行った。

まず、インターネットでの調査方法だが、動物メタファーを調査する際の検索ワードを設定する時に、メタファーは類似性に基づいて意味が拡張されているということを踏まえ、例えば「男は狼だ」というメタファーを「男は狼のようだ / 男は狼みたいだ」と直喩に変え、さらに「男は狼のように(な)~ / 男は狼みたいに(な)~」とすることにより「~」というベースを写像している部分を浮かび上がらせ、「狼のように(な)~ / 狼みたいに(な)」と「~」の部分の共起頻度を調査するという方法で行った。また調査実施日は、2011年7月2日に行った。

また検索エンジンは、ロボット型検索エンジンの代表である[1]グーグル(http://www.google.co.jp[2])のフレーズ検索を使用した。さらに検索オプションで検索の対象にする言語を日本語、検索の対象にする地域を日本、ページの最終更新日を1年以内、検索の対象にする箇所をページ全体に設定し検索を行った。グーグルの場合、検索結果のページを進めていくと「*最も的確な結果を表示するために、上の863件と似たページは除外されています。検索結果をすべて表示するには、ここから再検索してください*」という斜字体でメッセージが表示される。ここに現れた件数(上記の例だと863件)に同一サイトは重複と見なし、カウントしない。異なるサイトからの引用文であっても、引用文が同一である場合も、重複と見なしカウントしない。性的表現を含むスニペット[3]は一般的に使用されないと言う理由でカウントしない、という条件を加え調査・分析を行った。

抽出されたものを評価する基準として本研究では、tスコアを利用した。tスコアとは、統計学から転用された、2つの語の共起関係の統計的有意性を測る指標で、概念的には、共起の程度が偶然による確率を超えていると、どのくらいの確かさで言えるのかを示す指標であるとしている。また、tスコアは、慣用的なコロケーションであっても、共起度数がある程度に達していなければ高い値にはならず、「広く頻繁に用いられるコロケーション」を判定するのに適しているとしている。石川(2006)は、「コーパスの総語量を考慮し、全体における個々の語の出現比率を比較する。実際には、語の頻度情報を重視するため、高頻度語が高く評価されがちで、頻繁に用いられる一般性の高いコロケーションの評価に適している」としている。式は以下の通りである。

---

1) 近藤(2007)は近年はディレクト型よりロボット型の方が優れていると述べている。また、荻野(2004)は日本の主要検索サイトはグーグルを使用しており、日本で最も検索力があるとしている。
2) 2007年にグーグルはWebから抽出した約200億文(約2550億単語)の日本語データから作成したデータを公開している。(http://googlejapan.blogspot.com/2007/11/n-gram.html参照)
3) インターネットを使った検索で、検索結果ページにおいて、ウェブページにリンクされた文字列の下に表示される、検索語を含む抜粋のこと。

$$t = \frac{(\text{共起頻度} - \text{中心語頻度} \times \text{共起頻度})}{\text{コーパス総語数}} \div \sqrt{\text{共起頻度}}$$

尚、計算ソフトは、Microsoft社製のOffice Excel 2007を使用した。

次にことわざであるが、まず日本語におけることわざの定義を見てみると、『日本国語大辞典』では「昔から世間に広く言いならわされてきたことばで、教訓や風刺などを含んだ短句」としており『日本民俗大辞典』では「人間や人生に対する批評や教訓、あるいは経験的な知識などを効果的に表現した短句」としている。また『日本大百科全書』では次のように述べている。

> 俚諺、俗諺ともいい、古くから言い慣らわされ、日常生活の真理をうがった簡潔な表現。本来は「言の業」で、ことばによる表現のすべてを意味したが、やがて「いろはかるた」にみられるような巧みなたとえに限定された。主として庶民生活の体験的な知恵から生み出されたものが多いが、古典に含まれた格言や故事などから出て、いつのまにか俗間に流布したものも含まれる。

このように、ことわざは、昔からの意味を伝えており、動物が持つ本来の姿が見えてくると思われる。さらにインターネットの調査結果と比較することで昔と現代における意味の変化がわかるであろう。

またことわざの調査方法であるが、先行研究を基にそれぞれの動物のイメージのカテゴリー化を行い、さらにそれらの動物のイメージの確認のために『日本国語大辞典』で該当の動物を調査した。その調査で得られた3種類の動物のことわざの検出数は「狐」が37個、「猫」が112個、「蛇」が81個の計230個であった。さらにカテゴリー化したイメージにそれぞれの動物に関することわざを分類した。またことわざは『ことわざ大辞典』から引用した。

4. 調査結果

4.1「狐」に関するメタファー

日本において「狐」は稲荷信仰などからもわかるように、日本の民俗性と深い関わりを持っている。さらに「狐の嫁入り」という言葉が示す通り、女性的な動物として考えられて

いる。これらのことに対し『日本民俗語大辞典』では次のように述べている。

> 狐はあの意味ありげな眼つきと、その賢しげな挙動とによって、むかしはむしろ親切に、人に警告するものと信用されている。日本の狐は、上古・近世には、優しく気のきくものに語られているが、平安期以後に、恐ろしく執念深いものとなったことは、荼枳尼の修法の対称として、狐を駆使した結果である。

このように宗教的な意味付けがなされて以降は「稲荷信仰」などに結び付き、さらに同書によると「稲荷は女神だと説き、後世の社の鍵取りとも、奏者ともいえる狐を『命婦』と呼んだことも、こうした男女神の関係にあやかっての、性的な考えからの呼称なのだ」と述べている。つまり「狐」が女性的な意味を持ったのも、宗教的な意味付けからであることがわかる。また『日本風俗史事典』では、次のように述べている。

> 夜間に人里に現れてニワトリなどを襲うので害獣とされていたが、一方、古くから霊獣として信仰され、のちに稲荷信仰が普及されるに伴って稲荷大明神の使いとなり、霊の世界と交渉する媒介として大きな役割を果たすようになった。

また『日本民俗事典』では以下のように述べている。

> 狸とならんで人をだまし、病気にさせ、また姿をかえて化けると考えられ、その事例は最も普通の昔話の型を示している、さらにこのような狐の変怪神通力が信仰の衰退と共に化ける、化かすなどとして恐怖心に変ってきたと説かれている。

このことは、「狐」が日本人の宗教心と大きく関わってきたことを示している。さらに『民間信仰辞典』では以下のように述べている。

> 狐は神の使わしめと考えられており、その姿を見たり声を聞いたりした者は、何らかの神意を感じた。人知の及ばぬことを、狐の挙動や鳴き声によって知る伝承は多く、狐の霊を人につかせ、神の託宣を聞くことが村の恒例行事になっている所もある。しかし、託宣には不確定な要素が伴い、特にこれにあずからない者は不安で不吉なイメージをいだき、狐は次第に霊威あるものから悪いものへと考えられた。

上記のことから、人間による日本語における「狐」の価値の変遷がよくわかると思う。ま

た中村(2006)は次のように述べている。

> 亡妻に化けるのは主としてキツネであり、これは「日本霊異記」以来のキツネ妻の流れ、とくにお伽草子類「玉藻草紙」のキツネのように男性の精気を吸い取る中国流の妖狐の伝統を受けているのであろう。

また『日本民俗大辞典』では次のように述べている。

> 『日本霊異記』には人と狐の婚姻譚が納められている。さらに平安時代の半ば以後になると、狐妖譚も知られるようになった。『今昔物語集』には、狐に化かされてその巣穴を美女の邸宅と思っていた男の話が出てくる。いずれも中国における狐観の影響のもとに成立したと推定されるが、日本土着の要素を完全に否定することもできない。

これは、前述の中村(2006)の説を補完している形で記されている。さらに同書には「狐に関する昔話は大きく二つの型に分かれる。一つは狐と人の騙しくらべを主題とする型であり、あと一つは『狐女房』などの動物報恩譚である。いずれにおいても狐はそれほど危険な存在とはみなされなかった」と書かれており、「騙す」「女性」というキーワードが日本における「狐」をイメージしていることがわかる。

また『日本国語大辞典』では次のように述べている。

> 狐が悪賢く、人をだましたり、人にとりついてまどわすといわれるところから、それにたとえていう。うそつき。また悪賢い人。ずるい人。口先上手に人にとりいる者。こびへつらう人。(化粧をして男をたぶらかすというところから)芸妓、娼妓、遊女、女郎をののしっていう。目がつり上がり、口のとがった顔をいう。

このように「狐」のイメージはプラスイメージでは、稲荷を代表するように神秘的なものを帯びており、マイナスイメージでは、「知恵が悪い方に発達している女性的なもの」として捉えられていることがわかる。

4.1.1「狐のように / みたいに」の調査結果

表1は「狐のように / みたいに」の検索結果からtスコアが2以上のものを取出し、tスコア順でまとめたものである。

表 1「狐のように / みたいに」における共起頻度(tスコア順)

	X	Y	Xの度数(個)	Yの度数(個)	XYの度数(個)	tスコア
1	狐のように / みたいに	目が細い	1018	810	22	4.69
2	狐のように / みたいに	目がつりあがる	1018	43	21	4.58
3	狐のように / みたいに	狡猾な	1018	1670	15	3.87
4	狐のように / みたいに	ずる賢い	1018	758	10	3.16
5	狐のように / みたいに	悪賢い	1018	647	7	2.65
6	狐のように / みたいに	ずるい	1018	1122	5	2.24
7	狐のように / みたいに	目を細める	1018	1226	5	2.24

表1の結果の通り、「目が細くて、つりあがっていて、狡猾」という部分に特徴が集約されている。「狐」自体は、本能の赴くままに行動しているはずであり、それを「狡猾」「ずる賢い」と例えられてしまう行動とは例文には見られなかったが、「狐」と「狡猾な」「ずる賢い」「悪賢い」「ずるい」のフレーズ検索を行った。

表 2「のように / みたいに狡猾な」における共起頻度(tスコア順)

	X	Y	Xの度数(個)	Yの度数(個)	XYの度数(個)	tスコア
1	狐	のように / みたいに狡猾な	433	179	20	4.47
2	蛇	のように / みたいに狡猾な	456	179	19	4.36
3	悪魔	のように / みたいに狡猾な	483	179	11	3.32

表 3「のように / みたいにずる賢い」における共起頻度

	X	Y	Xの度数(個)	Yの度数(個)	XYの度数(個)	tスコア
1	狐	のように / みたいにずる賢い	433	84	8	2.83

表 4「のように / みたいに悪賢い」における共起頻度

	X	Y	Xの度数(個)	Yの度数(個)	XYの度数(個)	tスコア
1	狐	のように / みたいに悪賢い	433	44	14	3.74

表 5「のように / みたいにずるい」における共起頻度

	X	Y	Xの度数(個)	Yの度数(個)	XYの度数(個)	tスコア
1	狐	のように / みたいにずるい	433	84	8	2.83

表2から表5までは、tスコアが2以上のものを取出し、tスコア順でまとめたものである。この表から「狐」と「悪い方に知能が発達している」という意味の語彙との結び付きは、非常に強いことがわかる。また、興味深いことは、表2の2位に検出された「蛇」であるが、「蛇」も日本の文化では女性的な動物と解釈される場合が多い。4)

以上のように、これらのことから日本語の母語話者は「狐」は「目が細くて、つり上がっており、非常に知能が(悪い方に)発達しているため、(人間を)騙すもの」と考えていることがわかる。

4.1.2「狐のような / みたいな」の調査結果

表6は「狐のような / みたいな」の検索結果からtスコアが2以上のものを取出し、tスコア順でまとめたものである。

表 6「狐のような / みたいな」における共起頻度(tスコア順)

	X	Y	Xの度数(個)	Yの度数(個)	XYの度数(個)	tスコア
1	狐のような / みたいな	顔	1510	448	135	11.62
2	狐のような / みたいな	目	1510	403	47	6.86
3	狐のような / みたいな	尻尾	1510	457	23	4.79
4	狐のような / みたいな	耳	1510	479	20	4.47
5	狐のような / みたいな	姿	1510	349	10	3.16
6	狐のような / みたいな	女	1510	397	9	2.99
7	狐のような / みたいな	男	1510	435	6	2.45
8	狐のような / みたいな	つり目	1510	362	5	2.24
9	狐のような / みたいな	容姿	1510	406	5	2.24

表6の結果の通り、「顔」に注目していることがわかった。さらに言えば「顔」の中でも「目」と「つり目」という「目」に関する語彙が2種類も検出されていることから「目」に非常に注目していることがわかった。では、具体的にどのような「目」なのであろうか。以下に例を挙げた。

・2010年1月8日

「てんちむで検索したらモバゲーの頃の写真でてきたけど今とは別人、どちらかといえば**キツネみたいな細いつり目**なのに今はタレ目…。絶対目いじってるな。」

(55india.net/Star55/1262487652_1.html)

・2010年5月15日

「初見から【陰がある】っと表現している。私の考えは一貫しているwww　暗く沈んだどす黒い**細い狐のような**目を・・・・・　弄りたくなるのは、当然のことだったのだろう。」

(desktop2ch.net/deal/1273470166/?p=38)

4)「蛇」について詳しいことは後述する。

・2010年7月25日
「セルピコも兜の面を上げ、開いているのか分からない**狐のような細目**を歪めている。」
(www.mai-net.net/bbs/sst/sst.php?act=dump&cate=all)

・2010年8月31日
「まるで**狐のような細長い目**をした男が、口角を引き攣らせるように持ち上げながら、これは忠告ですよと嘲笑うかのように言った。」(piapro.jp/content/eagpsdu04y9166z0)

・2010年9月4日
「首の後ろで束ねられた腰まで届く黒髪、表現は悪いが**狐のような細長い目**、その瞳の様子は伺えないが口元には満面の笑みが浮かんでいる。」
(www.tinami.com/view/170395)

上記の例及び表6に検出されている「目が細い」や「目を細める」の通り、「狐のような / みたいな目」とは、「細くて、長い目」であり、さらに「つりあがっている目」であることがわかった。

そこで「のような / みたいな細い目」と「のような / みたいなつり目」で検索を行い「狐」とのコロケーション性を調査した。

表 7「のような / みたいな細い目」における共起頻度(tスコア順)

	X	Y	Xの度数(個)	Yの度数(個)	XYの度数(個)	tスコア
1	糸	のような / みたいな細い目	482	114	19	4.36
2	狐	のような / みたいな細い目	433	114	4	2.00
3	猫	のような / みたいな細い目	447	114	4	2.00
4	線	のような / みたいな細い目	449	114	4	2.00

表 8「のような / みたいなつり目」における共起頻度(tスコア順)

	X	Y	Xの度数(個)	Yの度数(個)	XYの度数(個)	tスコア
1	猫	のような / みたいなつり目	447	158	23	4.79
2	狐	のような / みたいなつり目	433	158	4	2.00

表7と表8は、tスコアが2以上のものを取出し、tスコア順でまとめたものである。上記の表の結果から、「狐」と「目」特に「細い目」と「つり目」の結び付きは非常に強いことがわかった。つまり「目」の形がつり上がっていたり、細かったりすれば、ずる賢くなくとも「狐」と

いうイメージが想起される。

また、「狐は女性的な動物である」と述べたが、表6の7位には「男」が検出されている。「女」は6位で検出されているが、両者の差はわずかであることから、基本的には「女性的な動物」であるが「目」の形と「ずるさ」からでは男からも「狐」を想起することができる。

4.1.3「狐」に関することわざの調査結果

今回の調査結果から「騙す」「落ち着きない」「悪賢い」「油断ならない」「不信用」「無知」「小人物」という分類を行った。この分類に従って、「狐」に関することわざを意味分類し、まとめたものが以下の表9である。[5)]

表 9 ことわざから検出された「狐」が意味するイメージ(単位は個)

	語彙	個数
マイナスイメージ	騙す	8
	落ち着きない	2
	悪賢い	1
	油断ならない	1
	不信用	1
	無知	1
	小人物	1
小計		15
計		15

では、意味分類したことわざを以下で例を挙げつつ、「騙す」「落ち着きない」「悪賢い」「油断ならない」「不信用」「無知」「小人物」の順に具体的に見てみる。

【騙す】

(1) 狐が人にだまされる

(2) 狐と鼬は人の眉毛を数える

(3) 狐と狸

上記のことわざは、(1)「いつもだましている者が、反対にだまされる」(2)「狐と鼬は人の心を察知し、だます」(3)「どちらも人を化かすといわれるところから、くせもの同士」とい

5) ことわざの個数は、全て述べ語数で算定したものである。

うことを表わしており、「騙す」の意味になると思われる。

【落ち着きない】
(1) 狐の河原走り
(2) 狐を馬に乗せたよう

上記のことわざは、(1)「落ち着きのない様子」(2)「動揺して落ち着きのないさま」ということ表現しており、「落ち着きない」を意味していると解釈した。

【悪賢い】
(1) 狐が説教する時は、鵞鳥に気をつけよ

このことわざは「悪賢い者が、まじめな様子をしている時は何か下心があると思って注意しなさい」ということを表わしているため、「悪賢い」と判断した。

【油断ならない】
(1) 狐に小豆飯

このことわざは「狐に好物の小豆飯を出したように、すぐに手をつける、油断がならないたとえ」ということを表わしており、「油断ならない」の意味になると思われる。

【不信用】
(1) 狐を馬に乗せたよう

このことわざは上記の「落ち着きない」にも現れていたが別の意味で「言うことがとりとめもなくて信用のおけないこと」ということもあるので、ここでは「不信用」という意味になると思われる。

【無知】
(1) 狐を以て狸となす

このことわざは「狐を見て狸という。それは狐も狸も両方とも知らないことをいうことであるから、知識の狭いたとえ」を表わしていることから、「無知」という意味になると思われる。

【小人物】

(1) 狐が虎の威を借りる

このことわざは「他の権勢に頼って威張る小人物」ということを表わしており、このことから「小人物」を意味しているものとした。

上記のように、インターネットの検索結果でも「狡猾な」や「ずる賢い」といった語彙が検出されたように、ことわざからも「騙す」や「悪賢い」という語彙が検出されたことから、「狐」と「悪い方に知能が発達している」という意味を持つ語彙との共起関係は非常に強いことがわかった。このことから日本語における「狐」のイメージは昔から現代まで「悪い方に知能が発達している」というイメージで変化が少ないと言える。

インターネット及びことわざの調査結果をまとめてみると、「狐のような / みたいな」では、検出された語彙の中から「目」に注目し分析を進めた結果、「狐のような / みたいな目」というメタファーは、「目」の形、つまり「細い目」と「つり目」に注目して作られているということがわかった。また「狐」と「目」の結び付きは非常に強く、「目」が「細い目」と「つり目」であるならば、知能が悪い方に発達していなくとも「狐」が想起されるということであろう。ただ「狐のような / みたいな」との共起語彙には「男」も検出されており、さらには「女」との差がわずかであることから「狐」からも「男」が想起される可能性があり、性別的な問題としては「狐」は「女性的」なイメージを持っているが、「男性的」イメージも少し持っているため、「非常に女性的」というよりは「やや女性的」と表現できると思われる。

また「狐」に関することわざは、「知能が発達している」という部分がインターネットの調査結果でも目立っており、この部分に関するイメージは、昔から現代まで変化がないと言える。ただし、この「知能が発達している」はマイナスイメージであり、プラスイメージとして適用されることはなかった。

4.2「猫」に関するメタファー

「猫」は日本において「狐」と同様に女性的な生物を意味してきた。また「猫」も「狐」のように人間に化けたり、化かしたりするが、「狐」と決定的に異る点は、愛玩動物であるということである。中村(2006)は次のように述べている。

「狐」は妖獣でありつづけたとしても、人と離れて生活しているから、人にとって決定的な難儀にはならない。けれども「猫」は人と共同生活している以上、妖獣であるほうが不自然であり、人も「猫」もその状態に耐えきれるものではない。

一般的には「猫」は『日本風俗史事典』では「ネコは本能的に放浪性があるので古くから魔性のものとされ、ネコにまつわる怪談の類いは少なくない」と書いている。また『日本国語大辞典』では次のように述べている。

表面だけ柔和に見せかけること。知っていても知らないふりをすること。魚好きであること。私娼の異称。情人。また、色男。

さらに『日本民俗事典』では以下のように述べている。

犬にくらべ人間に馴れず、ふとした機会に家から出ていって長い間帰らないなどの行動から、この世と異なる世界と交渉をもつと考えられ、他界からの使者のようにみなされたらしい。

「人間になつかない」ということがいかに当時の人々に衝撃的であったのかがわかると思う。さらに「犬」が人間になつきやすいということも「猫」に大きな影響を与えている。また『民間信仰辞典』では次のように述べている。

猫は犬とともに人間に最も近い家畜であり、捕鼠目的のために飼われた。招き猫など福神的信仰もあるが、その習性の不気味さから魔性と考えられることも多かった。

やはり「犬」との対称動物として「猫」が書かれており、人間主体の動物観の在り方がわかると思う。さらに『日本民俗大辞典』では以下のように述べている。

猫の体型は小型であり、牛馬と異なり人に使役されることもなく、犬と違って人の従者ともみなされていなかった。そのため猫は、擬人的に扱われる傾向が著しい。

これらのことから「犬」とは昔から非常に対照的に扱われてきたことがわかる。「犬」は人になつきやすいということから封建制度における従属性の象徴、つまり武士＝男性的＝犬と解釈すると、「猫」は「犬」へのアンチテーゼから猫＝女性的となったとも考えられると思われる。

4.2.1「猫のように / みたいに」の調査結果

表10は「猫のように / みたいに」の検索結果からtスコアが2以上のものを取出し、tスコア順でまとめたものである。

表 10「猫のように / みたいに」における共起頻度(tスコア順)

	X	Y	Xの度数(個)	Yの度数(個)	XYの度数(個)	tスコア
1	猫のように / みたいに	気ままな	2292	1565	15	3.87
2	猫のように / みたいに	気まぐれな	2292	2800	12	3.46
3	猫のように / みたいに	丸くなる	2292	2798	10	3.16
4	猫のように / みたいに	寝る	2292	2417	9	2.99
5	猫のように / みたいに	ごろごろする	2292	3083	5	2.24
6	猫のように / みたいに	自由奔放な	2292	1430	4	2.00

表10の結果の通り、日本語において「猫」は「束縛されない」「自由な」というイメージが想起されることがわかった。「犬」と「猫」は人間にとって太古から付き合いのある動物であるが、日本社会において「犬」が日本人及び日本社会の道徳性・理想像そのものを表しているとするならば、「猫」は反日本社会的でありつつも憧憬を意味していると思われる。「犬」が「強者に従順な」や「強者になつく」、つまり「媚びる」という意味を表しているため、その反動で「猫」には「強者に従順ではない」や「強者になつかない」という意味が想起されるようになったと思われる。

4.2.2「猫のような / みたいま」の調査結果

表11は「猫のような / みたいな」の検索結果からtスコアが2以上のものを取出し、tスコア順でまとめたものである。

表 11「猫のような / みたいな」における共起頻度(tスコア順)

	X	Y	Xの度数(個)	Yの度数(個)	XYの度数(個)	tスコア
1	猫のような / みたいな	顔	2415	448	15	3.87
2	猫のような / みたいな	目	2415	403	13	3.61
3	猫のような / みたいな	性格	2415	601	10	3.16
4	猫のような / みたいな	女	2415	527	10	3.16
5	猫のような / みたいな	耳	2415	479	4	2.00

表11の結果からわかる通り「顔」が1位で検出されたが、「顔」の部位は「目」だけが検出され

いることから「目」に注目してメタファーが作られていると言える。そこでここでは「目」に焦点を当てて例を挙げていくこととする。「目」の例を以下に挙げた。

・2010年12月1日
「初めて映画で柴崎コウさんを見た時に、**猫のような眼**をした方！！っという印象があります。話している感じとかも、人に媚びない、チョッと気高いシャムネコの」
(www.iris-pet.com/event/20101019/ranking.html)

・2010年12月21日
「真宙は**ネコのようなくるりとした目**で彼を見つめる」
(tutu123.blog.petitmallblog.jp/blog-entry-17.html)

・2011年2月11日
「**猫のような虹彩を備えた金色の一つ目**が、透明な瞬膜を動かしてぱちぱちと瞬きした」
(www.eepet.com/news/2011021121.html)

・2011年4月28日
「**大きなネコのような目**がステキで、昔トレンディードラマが全盛だったころは浅野ゆう子さんと『W浅野』なんて呼ばれた事もありました」(www.marseilledadi.com/?p=11)

また、「目」だけでなく「目」関連の例も挙げた。

・2010年7月16日
「“**ネコのようなかわいらしい目元**”という客の要望に応えるべく一心不乱に研究に没頭する」
(navicon.jp/news/8637)

・2010年8月31日
「意志が強そうでこびない、**キリッとした猫のような目元**の好感度が上がり、この秋のファッション誌での提案も盛んです」(toki.2ch.net/test/read.cgi/bizplus/1283219347)

・2011年6月3日
「まるで猫のような目つきで男を見つめる目は**セクシー**で悩殺されそうじゃ」
(muryo111joyu.blog.fc2.com/blog-entry-8.html)

上記の例から「猫のような / みたいな目」とは、「大きくて、くりくりしていて、魅力的な目」であり、プラスイメージを想起させる「目」であることがわかった。

また、3位に「性格」が検出されているが、これは表11の結果の通り、「気ままな」「気まぐれな」といった「束縛されない性格」であることがわかる。さらに4位に「女」が検出されているが、その「女」を意味する例を以下に挙げた。

・2010年10月27日
「一言コメント**猫みたいな魅力的な女の子**になりたいです！！」
(www.bijogoyomi.com/bijo3/index.php/2010/10/27)

・2011年5月31日
「小池栄子が**媚びることを一切しない**感じの**猫みたいな女**になりたいと語った」
(datazoo.jp/w/猫/6774041)

・2011年6月21日
「僕の担当の**ネコのようなかわいらしい女性**の先生は居たり居なかったりで、居なかったら予約できないんです」(suwwi.jugem.jp/?eid=782)

・2011年6月25日
「彼はそうい**う猫のような女性**がタイプで、元カノたちはみんなそうみたい。私とは似ても似つかない。私は、人より秀でてるのは学歴と料理と文句言わないことくらい。**容姿や性格は野暮ったくて、気もきかないし面白いことも言えない**」
(anond.hatelabo.jp/20110625205639)

上記の例のように単に「気ままで、気まぐれな性格」を有している「女」ではなく、容姿もきれいで魅力的な「女」であることがわかった。このことから日本語において女性に「猫のようですね / 猫みたいですね」と言うのは、誉めることに当ると言える。

また5位に検出された「耳」であるが、これはアニメなどで猫の習性などを持った人物像を強調する意味で使用されてきたものであり、コスプレなどで擬獣化する場合によくつけられる。実際には「犬」や他の動物の「耳」と変りないはずであるが、「猫」の生態的特徴を表す一部となっている。

4.2.3「猫」に関することわざの調査結果

今回の調査結果からマイナスイメージに「不適当」「無駄」「狡猾」「本心を隠す」「不吉」「不器用」「忘恩」「無分別」という分類を行った。この分類に従って、「猫」に関することわざを意味分類し、まとめたものが以下の表12である。

表 12 ことわざから検出された「猫」が意味するイメージ(単位は個)

	語彙	個数
マイナスイメージ	不適当	5
	無駄	4
	狡猾	3
	本心を隠す	3
	不吉	2
	不器用	1
	忘恩	1
	無分別	1
小計		20
計		20

以下で意味分類したことわざを幾つかの例を挙げつつ、「不適当」「無駄」「狡猾」「本心を隠す」「不吉」「不器用」「忘恩」「無分別」の順で具体的に見てみる。

【不適当】

(1) 猫に鰹の番

(2) 猫に魚の番

(3) 猫の尻へ才槌

上記のことわざは、(1)(2)「もっとも不適当な行いをすることをたとえていう」(3)「ふさわしくないこと」ということを表わしており、「不適当」という意味にした。

【無駄】

(1) 猫に経

(2) 猫に小判

(3) 猫に念仏、馬に銭

上記のことわざは、(1)(3)「物の価値がわからないこと」(2)「どんな貴重なものでも、その価値がわからない者に与えては、何の役にも立たないことのたとえ」ということを表わしており、「無駄」という意味になると思われる。

【狡猾】
(1) 猫が糞を隠したよう
(2) 猫が糞を踏む
(3) 猫する

上記のことわざは、(1)(2)「悪事をかくして知らぬ顔をすることをたとえていう」(3)「こっそりと盗む」ということを表わしており、「狡猾」という意味になると思われる。

【本心を隠す】
(1) 猫になっとる
(2) 猫の寒がるのと女の怖がるは嘘
(3) 猫を被る

上記のことわざは、(1)「本心をかくして、おとなしくなっていること」(2)「猫が寒がるのと、女性の怖がるのは本心ではないということ」(3)「本性をかくしておとなしそうに見せる」ということを表現しており、「本心を隠す」という意味にした。

【不吉】
(1) 猫が死人を飛び越すと死人が立つ
(2) 猫と睨み合いをして負けると死ぬ

上記のことわざには意味の解釈はされていなかったが、ことわざにある「死人」「死ぬ」という語彙から「不吉」ということを表わしていると判断し、「不吉」という意味になるとした。

【不器用】
(1) 猫の手さ餅

このことわざは「不器用なこと」ということを表わしており、「不器用」という意味にした。

【忘恩】

(1) 猫は三年の恩を三日で忘れる

このことわざは「猫が人の恩をすぐ忘れることにいう」ということを表わしており、「忘恩」という意味になると思われる。

【無分別】

(1) 猫も茶を飲む

このことわざは「生意気に分相応なことをするたとえ」ということを表わしており、「無分別」という意味になると思われる。

以上のように、インターネットの検索結果では「気ままな」や「気まぐれな」「自由奔放な」といったプラスイメージとも解釈できる語彙が検出され、現代における「猫」のイメージは非常に良かったのに対し、ことわざからはマイナスイメージを意味する語彙が検出された。また「猫」には「猫の寒がるのと女の怖がるは嘘」「猫の鼻と女の腰は温かいことはない」「猫は傾城の生まれ変わり」といった「女」と共に使われる傾向があり、これはインターネットの検索結果でも検出された通り、「猫」の性別的傾向は「非常に女性的である」と言える。

インターネット及びことわざの調査結果をまとめてみると、まず「猫のように / みたいに」では、「気ままな」や「気まぐれな」といった「自由奔放な性格」に関する語彙が多く検出された。

「猫のような / みたいな」では「顔」の部位の中でも「目」に注目して作られていることがわかった。さらにこの「目」は、単なる「目」ではなく「大きくて、魅力的な目」であり、プラスイメージを想起させる「目」であることがわかった。また「猫のような / みたいな女」というメタファーは「気ままな性格」「気まぐれな性格」だけを有している「女」でははなく、容姿もきれいで魅力的な「女」であることがわかった。性別的な問題も「猫」は「非常に女性的」なイメージを持っていると言える。

「猫」に関することわざは、マイナスイメージを意味する語彙だけが検出されたが、インターネットの検索結果ではプラスイメージを意味する語彙も検出されており、またその語彙の種類も異るため、「猫」のイメージは変化しやすいと言える。

4.3「蛇」に関するメタファー

日本には古くから人間と動物が結婚する話、つまり異類婚姻譚がある。普通は「狐」のように行う役割及び性別が固定されているが、中村(2006)は次のように述べている。

> 古代の神話においては、動物が雄であるとき人と通婚するのは主として「蛇(男神)」である。動物が雌である場合はワニ[6](女神)であった。しかし、8世紀になると前者は水神・稲作神に取り込まれ存在がなくなり、後者は9世紀以後になると神性がなくなり、ワニは単なる「蛇」として残るが、ヘビ身は恥ずべき姿であるという感じになる。

つまり、最初は男性的な畏怖の対象であったが、時代が経つとともに、女性的で忌嫌われる方向に変っていったと捉えられる。『日本伝奇伝説大事典』では次のように述べている。

> 蛇はナガムシとかナガモノともよばれ、その執拗な生き様によって人間に嫌われる動物である。古来、蛇は水神の姿と考えられ、あるいは仏法守護の八部衆の一として、『竜』の名称で畏れ崇められている。

さらに『日本民俗語大辞典』では次のように述べている。

> 蛇は、卵を破り出て後も、幾度か皮を脱ぎかえ、誕生―転生を繰り返して成長する。ここに這う虫の畏敬せられた理由がある。すなわち母胎による人間では、全くできない出現の方法、誕生を繰り返すものとして、蛇は尊重される。水陸両棲のこれに対する信仰は、水の神・火の神両様の生活呪力を持っているとされる。こうした信仰によって、神聖なものと信じられ、本名を呼ぶのを忌避されている。

『日本風俗史事典』では「神秘的なもの、霊的能力をそなえた存在という意味であり、水の神としての信仰の対象となり、池や沼・湖の主となる伝説も多い」としている。『日本大百科全書』では、次のように述べている。

> ヘビが善と悪の二面性および呪力をもつとされるのは、ヘビには足がなくてウロコがあるため陸上動物と魚類との区分を乱し、さらに生息場所が地上だけでなく、地下、樹上、水辺、人間の住

6) ここでいう「ワニ」とは、「海に住む神怪な動物、つまり海神の象徴」であり、「鰐」ではない。

居にも出没するという空間区分をも乱す、中間的、変則的な動物であるためと考えられる。

当時の人間が理解できないものに恐怖・畏怖を抱いたことがよくわかると思う。また『日本民俗大辞典』では次のように書かれている。

蛇は山の神・水神・農耕神・死霊の象徴として崇拝され、あるいは畏怖された。時代が下ると共にもともと蛇神は祟りやすい神であったが、これが怨霊との恐怖と結び付き、やがて蛇は悪性の憑物とみなされるようになった。

水田稲作の神であった「蛇」は、商業の開始と共に神の力を失い、単なる悪者に成り下がり、そのイメージが現代まで続いていると言える。最後に『日本国語大辞典』では「執念深いこと」と簡単に表現している。

4.3.1「蛇のように / みたいに」の調査結果

表13は「蛇のように / みたいに」の検索結果からtスコアが2以上のものを取出し、tスコア順でまとめたものである。

表 13「蛇のように / みたいに」における共起頻度(tスコア順)

	X	Y	Xの度数(個)	Yの度数(個)	XYの度数(個)	tスコア
1	蛇のように / みたいに	長い	1854	3839	23	4.80
2	蛇のように / みたいに	くねくねする	1854	2897	16	3.99
3	蛇のように / みたいに	しつこい	1854	3766	13	3.61
4	蛇のように / みたいに	曲がる	1854	12269	11	3.32
5	蛇のように / みたいに	這う	1854	4189	11	3.31
6	蛇のように / みたいに	うねる	1854	3547	9	2.99
7	蛇のように / みたいに	巻きつく	1854	2885	8	2.83
8	蛇のように / みたいに	絡みつく	1854	3053	7	2.65
9	蛇のように / みたいに	執念深い	1854	2207	7	2.64
10	蛇のように / みたいに	とぐろを巻く	1854	1819	7	2.64
11	蛇のように / みたいに	細長い	1854	2362	6	2.45
12	蛇のように / みたいに	くねる	1854	3014	5	2.24
13	蛇のように / みたいに	細い	1854	4989	4	2.00

表13の結果の通り、「長い」や「くねくねする」のような形状についての語彙が多く検出されていることがわかる。また3位の「しつこい」や9位の「執念深い」のような性質を意味する

語彙も7位の「巻きつく」や8位の「絡みつく」のような形状を意味する語彙からの意味拡張と考えられる。また、1位の「長い」と13位の「細い」であるが、これらの形状は「巻きつく」や「絡みつく」「とぐろを巻く」から考えた場合、棒状ではなく紐状であるため「蛇のような足」や「蛇みたいな棒」というメタファーは想起されない。

このようなことから「蛇」の特徴は全て外見上の形状から由来しており、性質に及ぶものも外見上からの意味拡張によって作られていることがわかった。

4.3.2「蛇のような / みたいな」の調査結果

表14は「蛇のような / みたいな」の検索結果からtスコアが2以上のものを取出し、tスコア順でまとめたものである。

表 14「蛇のような / みたいな」における共起頻度(tスコア順)

	X	Y	Xの度数(個)	Yの度数(個)	XYの度数(個)	tスコア
1	蛇のような / みたいな	目	1808	403	20	4.47
2	蛇のような / みたいな	形	1808	469	10	3.16
3	蛇のような / みたいな	顔	1808	448	7	2.65
4	蛇のような / みたいな	体	1808	458	5	2.24

まず、2位の「形」と4位の「体」は、表13の結果から、「長い」や「くねくねする」「細い」といった紐状の形態を意味していることがわかると思う。3位に検出された「顔」の中でも「目」に注目してメタファーが作られていることがわかった。その「目」を意味する例を以下に挙げた。

・2010年11月19日
「その時相手の真っ赤な**蛇のような目**から**凄まじい波動**を受け体がぐらぐらゆれるほどの感覚を受けた事があったそうです。きっと**凄まじい念**で母を食ってかかろうとしたのでしょうね」
(angel-book.com/i/Spiritual/Spiritual_Experience01/24.html)

・2011年4月16日
「原作者曰く『**蛇のような残酷な目**の男という意味』」
(ja.wikipedia.org/wiki/ハドラー_(ダイの大冒険))

・2011年5月2日
「こちらを直視する**蛇のような双眸**がぬらと満足気に光を放つ。その**眼に宿るのは怨念**の光だけではない。容赦のない強力無比な意思の波動が漲り」
(www.mai-net.net/bbs/sst/sst.php?act=dump&cate=all)

・2011年6月15日
「**下品な蛇のような瞳**が僕の気持ちを逆撫でた。相変わらずこの男は人を馬鹿にしている」
(novel18.syosetu.com/n0457t/47)

・2011年6月20日
「山田はまるで**ヘビのような目つきで**私の全身を舐めるようにねめつける。…**いやらしい**、いつもの目だ」(tw.neofig.com/entry/xWLrJ8e)

・2011年6月27日
「それにあの笑った時の**執念深い蛇みたいな目**が気になって仕方ないです。あんな気持ち悪い母親絶対ヤダ」(qa.fresheye.com/qa/view.php?qid=1465363699&kw)

上記の例のように「蛇のような / みたいな目」とは、「冷酷で、いやらしく、気持ち悪い目」と言えそうである。非常にマイナスイメージを想起させるメタファーということがわかった。

また性別的な問題であるが、中村(2006)では「男性的から女性的」に移り変わってきたとしているが、今回の調査では性別を意味する語彙は検出されず、中村の考察を考慮して「女性よりの中性的[7]」と言えそうである。

ここで興味深いことは、「狐」「猫」「蛇」と「目」に特徴がある動物が「女性的」であると言えることである。しかし、「狐」の「細くつり上がった目」や「猫」の「大きくて、くりくりしていて、かわいらしい目」に比べると「蛇」の場合は「冷酷で、いやらしく、気持ち悪い目」とかなり主観的である。これは「蛇」という存在が無条件で嫌われているということを意味しており、表13で検出された「しつこい」や「執念深い」も同様であろう。

4.3.3「蛇」に関することわざの調査結果

今回の調査結果からプイラスイメージを「吉兆」、マイナスイメージを「不吉」「執念深い」「

7) 本研究での結果からは「男性的」とも言える結果が検出されたが、元来は「女性的」な成分が多分にあったため、ここでは「女性よりの中性的」という曖昧な表現を使った。「蛇」の性別については今後の課題としたい。

根性が曲がっている」とした。この分類に従って、「蛇」に関することわざを意味分類し、まとめたものが以下の表15である。

表 15 ことわざから検出された「蛇」が意味するイメージ(単位は個)

	語彙	個数
プラスイメージ	吉兆	19
小計		19
マイナス イメージ	不吉	12
	執念深い	4
小計		16
計		35

では、分類を行ったことわざを以下で例を挙げ、「吉兆」「不吉」「執念深い」の順で見てみる。

【吉兆】
(1) 蛇が家に入ると金持ちになる
(2) 蛇に巻かれている夢は良い
(3) 蛇の衣脱ぐを見れば福あり

(3)「初夏、蛇の脱皮を見るとよいことがある」以外の上記のことわざには意味の解釈がなかったが、(1)(2)ともにことわざにある「金持ち」「良い」といった語彙から「吉兆」ということを表わしていると判断し、「吉兆」を意味しているものとした。さらに、この「吉兆」であるが、「蛇」に関することわざが19個検出され、さらにその中で9個が「金持ち」「長者」「銭」といった「金運」を意味しているものであった。

【不吉】
(1) 蛇が家の下に生き埋めになると不吉なことがある
(2) 蛇の夢を見れば験が悪い
(3) 蛇を指差せば指が腐る

上記のことわざは、(1)(2)(3)には意味の解釈がなかったが、ことわざにある「不吉」「悪い」「腐る」という語彙から「不吉」を表わしていると解釈し、「不吉」を意味しているとした。

【執念深い】
(1) 蛇と長袖の祟りは恐い
(2) 蛇となって金を守る
(3) 蛇のようにしつこい

上記のことわざは、(1)「坊主が執念深いことをいう」(2)「死後までに金銭に執着することをいう」(3)「蛇は執念深い動物だといわれていることからいう」ということを表わしており、「執念深い」を意味していると思われる。

以上のように、「蛇」には「吉兆」と「不吉」という矛盾する意味を抱えていることがわかった。太古には神として祭られていた「蛇」が時代が経つと共に忌嫌われる存在に成り下がっていたため「吉兆」「不吉」という相反する語彙を意味するようになったと思われる。しかし、インターネットの検索結果からは「吉兆」「不吉」という語彙は検出されず、「執念深い」という語彙だけがことわざと同様に検出されていた。

最後にインターネット及びことわざの調査結果をまとめてみると、「蛇のように / みたいに」では、「長い」や「くねくねする」のような形状についての語彙が多く検出されていることがわかった。さらには「しつこい」や「執念深い」のような性質を意味する語彙も「巻きつく」や「絡みつく」のような形状を意味する語彙からの意味拡張と考えられる。ここまで外見上の特徴に執着する理由は、我々の生活の周辺には「蛇」のような紐状の動物は少ないと言うことである。「犬」や「猫」、「豚」のように一般的によく見ることができる動物は、大抵は四つ足であり、動物というスキーマの範疇に入ると思われる。「蛇」のように手足がないというのは、非常に目新しい形状であり、同じ爬虫類のとかげや昆虫にしても手足は存在する。やはり生物というイメージスキーマの概念の範疇に入らないため、このように外見上の特徴に注目されているのであろう。

「蛇のような / みたいな」では、「目」に注目していることがわかった。その「目」とはどのようなものかというと、「冷酷で、いやらしく、気持ち悪い目」と言え、非常にマイナスイメージを想起させるメタファーということがわかった。

また性別的な問題であるが、中村(2006)では「男性的から女性的」に移り変わってきたとしているが、今回の調査では性別を意味する語彙は検出されず、中村の考察を考慮して「女性よりの中性的」と言えそうである。

「蛇」に関することわざは、プラスイメージで「吉兆」、マイナスイメージで「不吉」という

語彙が検出され、矛盾した結果となったが、これは日本社会で「蛇」の変遷、つまり神から嫌悪の対称へと変っていった過程を考えた場合、ことわざの結果と一致していることがわかる。このことはインターネットの検索結果からは見られないものである。

ここでは「蛇」が、何故ここまで忌嫌われる動物としてイメージされるようになってしまったのかを考えてみたい。中村(2006)でも「古代では神として男性的な畏怖の対象であった」と述べているように神性を帯びていたが、時代が経つとともに、神的な力は失い、性別的なものも男性的かた女性的に変り、忌嫌われる対象に成り下がっていった。このような過程を経た理由として、上記でも述べた通り、生物というイメージスキーマの概念の範疇に入らないということが最も大きな要因であろう。つまり我々が想像できない、即ち得体の知れないものへの畏怖から始まり、「蛇」に対する知識の獲得とともに毒を持つという理由で人間に対する害獣となっていったと思われる。しかし、神的な力は弱化したものの、全く失ったわけではなく、それが不気味さという形で『道成寺』などの物語に残ってゆくと思われる。

5. おわりに

以上のように「狐」「猫」「蛇」について考察を行ってきた。「狐」から見てみると、まず、「狐のように / みたいに」では、「狐」は「目」の形と「(悪い意味での)知能が発達した行動を行う」という前提(理想化)でメタファーが作られている。また「狐」と「(悪い意味での)知能が発達した行動を行う」こととの結び付きは非常に強いということと「狐は女性的な動物」ということから「女は狐」というメタファーには「女は(人を)騙すもの」という意味があるということがわかる。

以上のようにインターネット及びことわざから得られた「狐」「猫」「蛇」の3種類のメタファーのイメージを整理したものが以下の図1である。

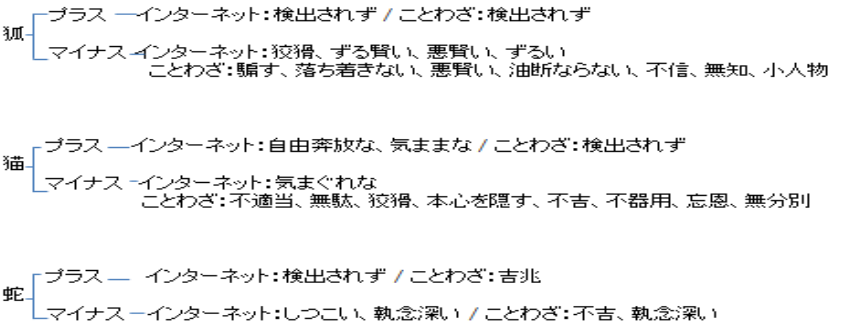

図1 インターネット及びことわざから得られた「狐」「猫」「蛇」のイメージ

まず、共通点としては、全体的にプラスイメージが少なく、マイナスイメージが多かった。また3種類の動物全てに共通しているものは検出されなかったが、「不吉」「狡猾」の2つが2種類の動物の共通イメージとして検出された。また「~のような」で検出されたものとしては「顔」と「目」が3種類の動物の共通イメージとして検出された。なぜ「顔」に視線が行くのかというと、我々人間には「紡錘状顔領域」と呼ばれる顔を見ることに特化した部位があるためであり、さらにスタッフォード(2005)の実験によれば、人の顔を見る時、人間の視点は主に、目と口のあたりに置かれるという。

また「狐」と「猫」のイメージは全体的に相似しており、悪い方に知恵が発達していて、「目」がつり上がっていたり細かったりすれば「狐」、自由奔放で「目」の形状が丸かったりくりっとしていれば「猫」になることがわかった。最後に民俗・民族学的に幅広く研究を進め、さらには韓国や中国といった東洋文化圏で対照・比較研究することが今後の課題になると思われる。

【参考文献】

石川慎一郎(2006)「言語コーパスからのコロケーション検出の手法―基礎的統計値に ついて―」『統計数理研究所共同研究レポート』190

李徳奉(1992)「比喩の連想的意味における文化差の測定法に関する研究」『日本学報』第28輯　韓国日本学会, pp.111-146

荻野綱男(2004)「各種検索エンジンの実体と特徴」『日本語学』明治書院 VOL.23-2, pp.18-33

_____(2007a)「コーパスとしてのWWW検索の活用」『月刊言語』大修館書店 Vol.36, No.7, pp.26-33

_____(2008)「WWWコーパスとして利用する研究-文系と理系の観点から-」『日本語学』明治書院 VOL.27-2, pp.4-9

楠見孝(2004)「比喩の理解」『おもしろ言語のラボラトリー』北大路書店, pp.155-171

近藤泰弘(2007)「インターネット時代の用例収集―検索エンジンの応用から日本語話し言葉コーパスまで―」『月刊言語』大修館書店 Vol.36, No.7
斎藤俊雄・中村純作・赤野一郎編(2005)『英語コーパス言語学　基礎と実践』研究社
T.スタッフォード・M.ウェッブ / 夏目大訳(2005) 『Mind Hacks ―実験で知る脳と心のシステム』 オライリー・ジャパン, pp.93-94
高橋正憲(2012)『日韓動物メタファーに関する対照研究』中央大学大学院博士論文
滝沢直宏(2007)「巨大データの必要性」『月刊言語』大修館書店 Vol.36, No.7, pp.34-41
田中ゆかり(2003)「ネット検索は言語の研究に有用か」『日本語学 4月臨時増刊号』明治書院 VOL.22-4, pp.111-123
田野村忠温(2000)「電子メディアで用例を探す―インターネットの場合―」『日本語学』明治書院VOL.19-6, pp.25-34
中村禎里(2006)『日本人の動物観 変身譚の歴史』BPN
町田健・籾山洋介(2006)『認知意味論のしくみ』研究社, p.154
籾山洋介(2006)『日本語は人間をどう見ているか』研究社, pp.43-145

【参考事典・辞典】

石上堅(1985)『日本民俗語大辞典』桜楓社
乾克己・小池正胤・志村有弘・高橋貢・鳥越文蔵(1986)『日本伝奇伝説大事典』角川書店
大阪外国語大学朝鮮語研究室(1986)『朝鮮語大辞典』角川書店
大塚民俗学会(1980)『日本民俗事典』弘文堂
櫻井徳太郎編(1980)『民間信仰辞典』東京堂出版
小学館編(1993)『日本大百科全書』小学館
尚学図書(1985)『ことわざ大辞典』小学館
日本国語大辞典編集委員会・小学館国語辞典編集部(2001)『日本国語大辞典』小学館
日本風俗史学会(1979)『日本風俗史事典』弘文堂
福田アジオ・湯川洋司・中込睦子・新谷尚紀・神田より子・渡辺欣雄(1999)『日本民俗大辞典 上下』吉川弘文館
民俗学研究所(1979)『民俗学辞典』東京堂出版

【参考サイト】

http://googlejapan.blogspot.com/2007/11/n-gram.html
http://www.google.co.jp
http://100.yahoo.co.jp/

논문투고일 : 2012년 06월　10일
심사개시일 : 2012년 06월　20일
1차 수정일 : 2012년 07월　10일
2차 수정일 : 2012년 07월　20일
게재확정일 : 2012년 07월　25일

<要旨>

女性を意味する動物メタファーの相違点
-狐・猫・蛇を中心に-

本研究は、女性を意味する動物メタファー、すなわち「狐」「猫」「蛇」をインターネットのWWWページ及びことわざから得られたデータを基にそれぞれの動物の相違点を調査・分析したものである。結果的に「狐」は「目」の形と「(悪い意味での)知能が発達した行動を行う」という前提(理想化)でメタファーが作られており、「知能が発達している」という部分がインターネットの調査結果でも目立っており、この部分に関するイメージは、昔から現代まで変化がないと言える。ただし、この「知能が発達している」はマイナスイメージであり、プラスイメージとして適用されることはなかった。「猫」は「顔」の部位の中でも「目」に注目して作られていることがわかった。さらにこの「目」は、単なる「目」ではなく「大きくて、魅力的な目」であり、プラスイメージを想起させる「目」であることがわかった。また「猫のような / みたいな女」というメタファーは「気ままな性格」「気まぐれな性格」だけを有している「女」でははなく、容姿もきれいで魅力的な「女」であることがわかった。性別的な問題も「猫」は「非常に女性的」なイメージを持っていると言えるが、ことわざからはマイナスイメージを意味する語彙だけが検出されインターネットの検索結果ではプラスイメージを意味する語彙も検出されており、またその語彙の種類も異るため、「猫」のイメージは変化しやすいと言える。「蛇」は「目」に注目しており、その「目」は「冷酷で、いやらしく、気持ち悪い目」と言え、非常にマイナスイメージを想起させるメタファーということがわかった。さらにプラスイメージで「吉兆」、マイナスイメージで「不吉」という語彙が検出され、矛盾した結果となったが、これは日本社会で「蛇」の変遷、つまり神から嫌悪の対称へと変っていった過程を考えた場合、ことわざの結果と一致していることがわかる。このことはインターネットの検索結果からは見られないものである。

Dissimilitude in Animalic Metaphors Implying Femininity: Fox, Cat and Snake

This research aims to investigate and analyze differences as well as similarities found in three respective animals, such as fox, cat and snake, all of which are perceived as animalic metaphors implying femininity, on the basis of the outcomes gained through both internet web pages and proverbs concerned with these metaphors. The outcomes are as follows:

- [1 – Fox]: Fox tended to engender metaphors by centering upon its “shape of yes” and the precondition that “it behaves quite intelligently (in a negative / derogatory sense)”. In particular, the latter one has been oftentimes identified during the internet research and this implication to do with fox has long remained unchanged up to the present time. In other words, the image of fox that “it behaves quite intelligently” has negative ramifications and, hence, this has not been utilized in a positive, hence favorable, sense.

- [2 – Cat]: Metaphors associated with cat were produced, centering primarily upon cat’s eyes attached to its skull part. The eyes in this context indicate “huge and attractive eyes” that generate positive images to others, not “just plain and expressionless eyes” in a literal sense. And the metaphor like “a woman like a cat” connoted not merely a woman having a liberal / open-minded and even rowdy personality, but also a good-looking and physically attractive woman. While words implying only negative images being identified in proverbs, positive images were also found in the internet research. On top of this, terms associated with cat were so diverse that the overall image of cat tended to be by and large changeable.

- [3 – Snake]: Metaphors to do with snake center upon its eyes that symbolize “heavy-handed, crafty and crawly eyes” and their images had a tendency of having more negative ramifications than the first two metaphors. In proverbs were both positive (i.e. auspicious / fortunate face: 吉祥) and negative (i.e. bad omen)-imaged words found in proverbs, leading to producing rather contradictory outcomes. This result was to a greater extent interesting, especially given that “the metamorphosis of snake” in the Japanese society generally connotes the gradual process of transforming it into to being an object of hatred from being an object of worship like god.